研究

毛利市三郎領分(陸)（3）

山本　保
（会員　佐伯市池船町）

一　佐伯城下より稲葉能登守領分、警固屋(けごや)村の堺まで、陸路五里。
うち二里は、鏡山と言う坂なり。
牛馬の通い吉。この道筋に、小溝川の瀬、三瀬あり。

一　大坂本郷(弥生町)の内、尺間村の道筋、稲葉能登守(臼杵藩五万石)領分也。
千年村の堺まで、城下より五里二十七町。
この間に、溝川の瀬、六瀬あり。

一　佐伯城下より、因尾郷(本匠村)の道筋、稲葉能登守領分。
うち梯川内村の堺まで、六里三十町。
この間に、鬼瀬と言う川あり。
広さ二十間、深さ一尺五寸。
その外に、溝川の瀬、十一瀬あり。
いずれも、道筋難所。牛馬の通いあり。

一　因尾郷の内、堂の間より、土河屋村まで二十八町。土河屋より、稲葉能登守領分・白谷村(野津町)の堺なり。
拾八町土河屋より、山部村(本匠村)まで一里十二町。山部村より、稲葉能登守領分、出羽村(野津町)の堺まで十六町。
山部村より嶺(みね)まで十八町。

一　因尾郷のうち、堂の間より井の内まで、一里。
この間に、溝川、四瀬あり。

一　城下より、大越村(上堅田村)まで、二里十二町。
この間に、溝川の瀬、六瀬あり。

一　城下より、山口村（青山村）まで、小道三里十八町あり。
この間に、溝川八瀬あり。

一　城下より、浦代（米水津村）まで、三里三十町。
牛馬の道なし。この間に、溝川二瀬あり。

一　古市郷（鶴岡村）の内、駄市村に古城跡（栂牟礼城跡）あり。坂の内、三町二十間。
木戸口、卯（東）の方にあり。
小柴山上の場の広さ、北南三十間、西東二十一間あり。南北尾続きなり。
山の上に水なし。谷に水あり。
城下より、陸路三十町。
但、駄市村より未（西南）の方は、中川内膳正（岡藩七万石）領分。
見明村（みあかりむら）宇目町堺めまで五里。
牛馬の通いあり。
この間に、番匠川の瀬、広さ四十間、深さ二尺。
その外、溝川の瀬、五瀬あり。

一　城下より南の方は、有馬左衛門佐（延岡藩七万石城主）領分、三川内村（宮崎県北浦町）の堺まで陸路四里三十三町。
但、三十三町は、山坂難所。牛馬の通いなし。
この間に、舟渡りの川、一瀬あり。広さ一町。
この外、歩渡りの溝川、七瀬あり。

【注】一里（四キロメートル）　一町（一〇九メートル）
一間（一・八メートル）　一尺（三〇センチメートル）

天　領（幕府領）

寛永九年（一六三二）、二代藩主毛利高成は、加藤忠広（七十八万石）の肥後・熊本城明け渡しの命令を、三代将軍・徳川家光より受けて、豊後・岡藩主（七万石）中川久盛などと一緒に出陣し、その任務を果たして、帰る途中病死した。時に三十歳。

急な逝去であったため、継嗣問題で、お家騒動が起こりましたが、結局、高成の嫡主市三郎が、三代藩主と

なって、高尚と称することになった。

争いに敗れた森吉安(初代高政の弟)は立腹し、堅田(下堅田村)、床木(弥生町)二千石、つまり、下堅田地区の汐月・津志河内・柏江・波越・石打・西野・府坂・泥谷・青山地区(青山村)の棚野、

そして、床木(弥生町)など十か所を、徳川幕府に返上して、旗本勤務となった。いわゆる天領事件です。

この森吉安の領地は、幕府領となって、日田郡代の管理下に置かれた。

彼の墓所は、江国寺内(柏江区)にあります。

昔、天領であった下堅田と床木には、それぞれ、造林記念碑が建てられている。

中越道

小浦から中越に行く道を中越道という。山田平之丞は『郷土ものがたり』で次のように述べている。

小浦から中越にこす道は、きわめて難道である。この道はお殿様時代の方がよかったそうだ。それは四月はじめの宗門改めに、米水津にきたお改め役人が中越に行くので、村の人たちが道普請をしていたからである。

この道を登りつめて、米水津と中浦の分水嶺に立つと、天空海闊日本が一目に見える。ここを基点として、鶴見半島が約五里、うねうねと豊後水道に突出している。南側のムスコヤ・ハザコ・ヨシガウラの米水津浦と、ナカゴシ・サルド・タンガ・カジヨセの北側中浦の各リアス式海岸を振り分けて、その岬端は九州島の最東端、断崖絶壁、鯨波激潮の鶴見崎である。

ここに到る稜線は一高一低、一起一伏、「箱根の山は天下の険」どころではない。狂風衣袂をはらい、草露肌をうるおす。行路きわめてなやむも、その雄大を極むる大観は他に比類なしというても過言ではない。

小浦から中越に行く道は、小浦の登り口に庚申塔のある所から急な山道を鶴御崎の方向に登る。尾根に達すると「ムスコヤ」を眼下に見る。ここからの絶景は山田平之丞が書いているとおりである。尾根に沿うように高さ約二㍍の猪垣が万里の長城のように横たわっている。鉄骨で作った〝はしご〟で石垣を越すと中越の上に達する。雑木林を少し下ると、以前イモを植えていた幅の狭い段畑が家の付近まで続いている。(『米水津村誌』・二万五千分の一「鶴御崎」図幅参照)